

安全データシート

作成日 2020 年 7 月 30 日

1. 製品及び会社情報

製品名	: DDチェッカー DD 寒天培地
会社名	: 極東製薬工業株式会社
住所	: 東京都中央区日本橋小舟町 7 番 8 号
担当部門	: 営業学術部
電話番号	: 03-5645-5664
FAX 番号	: 03-5645-5703
製品コード	: 04200, 04201
緊急連絡電話番号	: 03-5645-5664

2. 危険有害性の要約

GHS 分類は、「3. 組成、成分情報」、「9. 物理的及び化学的性質」、「11. 有害性情報」及び「12. 環境影響情報」に基づく。

【発色液】

GHS 分類

物理化学的危険性

・引火性液体 : 区分 2

健康に対する有害性

・急性毒性(経口) : 区分に該当しない

・急性毒性(経皮) : 区分に該当しない

・急性毒性(吸入-蒸気) : 区分に該当しない

・急性毒性(吸入-粉塵・ミスト) : 分類できない

・皮膚腐食性/皮膚刺激性 : 分類できない

・眼に対する重篤な損傷性/刺激性 : 区分 2B

・呼吸器感作性 : 分類できない

・皮膚感作性 : 分類できない

・生殖細胞変異原性 : 分類できない

・発がん性 : 区分 1A

・生殖毒性 : 区分 1A

・特定標的臓器毒性(単回ばく露) : 区分 3 (気道刺激性、麻酔作用)

・特定標的臓器毒性(反復ばく露) : 区分 1 (肝臓)、区分 2 (中枢神経系)

・吸引性呼吸器有害性 : 分類できない

環境に対する有害性

・水生環境有害性(急性) : 分類できない

・水生環境有害性(慢性) : 分類できない

・オゾン層への有害性 : 分類できない

GHS ラベル要素



注意喚起語 : 危険

危険有害性情報	:	<ul style="list-style-type: none"> ・引火性の高い液体及び蒸気 ・眼刺激 ・呼吸器への刺激のおそれ ・眠気またはめまいのおそれ ・発がんのおそれ ・生殖能または胎児への悪影響のおそれ ・長期にわたる、または反復ばく露による肝臓の障害 ・長期わたる、または反復ばく露による中枢神経系の障害のおそれ
注意書き	[安全対策]:	<ul style="list-style-type: none"> ・使用前に取扱説明書を入手すること。 ・熱、高温のもの、火花、裸火及び他の着火源から遠ざけること。禁煙。 ・容器を密閉しておくこと。 ・静電気放電に対する予防措置を講ずること。 ・粉塵/ミスト/蒸気を吸入しないこと。 ・保護手袋/保護衣/保護眼鏡を着用すること。
	[応急措置]:	<ul style="list-style-type: none"> ・眼に入った場合: 水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを装着している場合に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。 ・以下のような時には、医師の診察/手当てを受けること。 ばく露またはばく露の懸念がある場合。気分が悪い時。眼の刺激が続く場合。 ・火災の場合: 消化するために適切な消火剤を使用すること。
	[保管]:	<ul style="list-style-type: none"> ・換気の良い涼しい場所で保管すること。容器を密閉しておくこと。
	[廃棄]:	<ul style="list-style-type: none"> ・内容物及び容器は認可された廃棄物処理施設に廃棄すること。

【DD 寒天培地】

GHS分類

物理化学的危険性	: 分類対象外又は分類できない
健康に対する有害性	: 分類対象外、区分に該当しない又は分類できない
環境に対する有害性	: 分類できない

GHSラベル要素

絵表示又はシンボル	: なし
注意喚起語	: 該当しない
危険有害性情報	: 該当しない
注意書き	: なし

3. 組成、成分情報

化学物質・混合物の区分	: 混合物
化学名又は一般名	: データなし

【発色液】

成分	化学特性 (化学式等)	CAS No.	濃度又は濃度 範囲(含有量)	官報公示整理番号 (化審法・安衛法)
エタノール(1)	C ₂ H ₅ OH	64-17-5	69.7%	2-202

危険有害成分 : エタノール

4. 応急措置

- 吸入した場合 : 新鮮な空気の所に移し、鼻をかみ、うがいをさせる。処置後異常を感じた場合は医師の手当てを受ける。
- 皮膚に付着した場合 : 多量の水で石鹸を用いてよく洗い流す。炎症を生じた場合は医師の診断を受ける。
- 眼に入った場合 : 15分以上水で洗浄する。瞼を広げ、眼をあらゆる方向に動かす。異常があれば医師の手当てを受ける。
- 飲み込んだ場合 : 多量のぬるま湯を飲ませ、吐かせ、直ちに医師の診断を受ける。
- 暴露又は暴露の懸念がある場合 : 医師の診察/手当てを受ける。

5. 火災時の措置

- 消火剤 : 粉末消火剤、水、炭酸ガス、砂等
- 使ってはならない消火剤 : データなし
- 火災時の特有危険有害性 : 消火の際には煙を吸い込まないように適切な保護具を着用する。
- 特有の消火方法 : 火元への燃焼源を断ち、適切な消火剤を使用して消火する。消火活動は、可能な限り風上から行う。
- 消火を行う者の特別な保護具及び予防措置 : 消火作業の際は、必ず保護具を着用する。

6. 漏出時の措置

- 人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置 : 作業の際には適切な保護具を着用し、飛沫等が皮膚に付着したりしないようにする。風上から作業して、風下の人を退避させる。
- 環境に対する注意事項 : 漏出した製品が河川等に排出され、環境への影響を起こさないように注意する。汚染された排水が適切に処理されずに環境へ排出しないように注意する。
- 封じ込め、浄化の方法及び機材 : 密閉できる空容器に回収する。こぼした場所は、ウエス、雑巾等で拭き取る又は大量の水で洗い流す。

7. 取扱い及び保管上の注意

- 取扱い
- 技術的対策 : 火気厳禁
- 局所排気・全体換気 : 局所排気装置を使用すること
- 注意事項 : 本品は転倒させ落下させ衝撃を与え又は引きずる等の粗暴な扱いをしない。使用後は容器を密栓する。取扱い後は手、顔等をよく洗い、うがいをする。
- 安全取扱い注意事項 : 吸い込んだり、目、皮膚及び衣類に触れないように適切な保護具を着用する。
- 保管
- 適切な保管条件 : 容器は密栓し、光を避け2～10℃にて保管する。
- 注意事項 : 火気厳禁
- 安全な容器包装材料 : ポリエチレン
-

8. 暴露防止及び保護措置

混合物としてのデータはない。各成分の情報を記載する。

設備対策 : 局所排気装置、取扱場所の近くに手洗い、洗眼設備を設置する。

管理濃度・作業環境評価基準 :

許容濃度 ACGIH; (1): STEL: 1000 ppm

保護具

呼吸器の保護具 : 保護マスク

手の保護具 : 保護手袋

目の保護具 : 保護眼鏡

皮膚及び身体の保護具 : 保護衣、保護長靴

9. 物理的及び化学的性質

物理状態 : 発色液:液体、DD 寒天培地:ゲル

色 : 発色液:無色、DD 寒天培地:淡黄色

臭い : データなし

融点/凝固点 : データなし

沸点、初留点及び沸点範囲 : 発色液: >35°C(初留点)

可燃性 : データなし

爆発下限界及び爆発上限界/可燃限界 : データなし

引火点 : 発色液: <23°C

自然発火点 : データなし

分解温度 : データなし

pH : データなし

動粘性率 : データなし

溶解度 : データなし

n-オクタノール/水分配係数 : データなし

蒸気圧 : データなし

密度及び/又は相対密度 : データなし

相対ガス密度 : 該当しない

粒子特性 : 該当しない

その他のデータ : なし

10. 安定性及び反応性

反応性 : データなし

化学的安定性 : データなし

危険有害反応可能性 : データなし

避けるべき条件 : データなし

混触危険物質 : データなし

危険有害な分解生成物 : データなし

11. 有害性情報

混合物としてのデータはない。各成分の情報を記載する。

急性毒性

-
- (1): ・急性毒性(経口): ラットLD50=6,200 mg/kg、11,500 mg/kg、17,800 mg/kg、13,700 mg/kg (PATTY(6th, 2012))、15,010 mg/kg、7,000-11,000 mg/kg(SIDS(2005))
・急性毒性(経皮): ウサギLDLo= 20,000 mg/kg(SIDS(2005))
・急性毒性(吸入:蒸気): ラットLC50=63,000 ppmV(DFGOT vol.12(1999))、66,280 ppmV (124.7 mg/L)(SIDS(2005))

皮膚腐食性/刺激性

- (1): ウサギに4時間ばく露した試験(OECD TG 404)において、適用1および24時間後の紅斑の平均スコアが1.0、その他の時点では紅斑及び浮腫の平均スコアは全て0.0であり、「刺激性なし」の評価 SIDS(2005)

眼に対する重篤な損傷性/刺激性

- (1): ウサギを用いた2つの Draize 試験(OECD TG 405)において、中等度の刺激性と評価されている(SIDS(2005))。このうち、1つの試験では、所見として角膜混濁、虹彩炎、結膜発赤、結膜浮腫がみられ、第1日の平均スコアが角膜混濁で1以上、結膜発赤で2以上であり、かつほとんどの所見が7日以内に回復した(ECETOC TR 48(2)(1998))

呼吸器感受性又は皮膚感受性

- (1): ・アルコールによる気管支喘息症状の誘発は血中アルデヒド濃度の増加と関係があると考えられている。一方、軽度の喘息患者2人がエタノールの吸入誘発試験で重度の気管支収縮を起こしたことが報告されている(DFGOT vol.12 vol.12(1999))が、その反応がアレルギー由来であることを示すものではないとも述べられている(DFGOT vol.12 vol.12(1999))
・ヒトでは他の一級または二級アルコールとの交叉反応性がみられる場合があること、動物試験で有意の皮膚感受性はみられないことにより、エタノールに皮膚感受性ありとする十分なデータがない(SIDS(2005)、DFGOT vol.12 vol.12(1999))

生殖細胞変異原性

- (1): マウスおよびラットを用いた経口投与(マウスの場合さらに腹腔内投与)による優性致死試験において陽性結果(SIDS(2005)、IARC(2010)、DFGOT vol.12(1999)、PATTY(6th, 2012))があるものの、試験条件の不十分性や試験結果の誤りなどが認められ信頼性は低い又は信頼性なしと評価している(SIDS(2005)、DFGOT vol.12(1999))。また、ラット、マウスの骨髄小核試験で陰性、ラット骨髄及び末梢血リンパ球の染色体異常試験で陰性(SIDS(2005)、PATTY(6th, 2012)、IARC(2010)、DFGOT vol.12(1999))、チャイニーズハムスターの骨髄染色体異常試験で陰性(SIDS(2005))である。また、マウス精子細胞の小核試験、精母細胞の染色体異常試験、ラット精原細胞の染色体異常試験、チャイニーズハムスター精原細胞の染色体異常試験(異数性)で陰性である(IARC(2010)、DFGOT vol.12(1999))。なお、陽性の報告として、ラット、マウスの姉妹染色分体交換試験がある(DFGOT vol.12(1999)、PATTY(6th, 2012))が、SIDS(2005)などでは評価されていない。in vitro変異原性試験として、エームス試験、哺乳類培養細胞を用いるマウスリンフォーマ試験及び小核試験はすべて陰性と評価されており(PATTY(6th, 2012)、IARC(2010)、DFGOT vol.12(1999)、SIDS(2005)、NTP DB(Access on June 2013))、in vitro染色体異常試験でもCHO細胞を用いた試験1件の陽性結果を除き他はすべて陰性であった(SIDS(2005)、PATTY(6th, 2012)、IARC(2010))。なお、この染色体異常の陽性結果は著しく高い用量で生じており、高浸透圧のような非特異的影響に起因した染色体傷害の可能性があると記載(SIDS(2005))されている。

発がん性

- (1): ACGIHでA3に分類されている(ACGIH(7th, 2012))。また、IARC(2010)では、アルコール飲料の発がん性について多くの疫学データから十分な証拠があることなどから、アルコール飲料に含まれるエタノールの摂取により、エタノール及び主代謝物であるアセトアルデヒドが食道
-

などに悪性腫瘍を誘発することが明らかにされている。

生殖毒性

- (1): ヒトでは出生前にエタノール摂取すると新生児に胎児性アルコール症候群と称される先天性の奇形を生じることが知られている。奇形には小頭症、短い眼瞼裂、関節、四肢及び心臓の異常、発達期における行動及び認知機能障害が含まれる(PATY(6th, 2012))。なお、胎児性アルコール症候群は妊娠中に大量かつ慢性的にアルコールを飲んだアルコール依存症の女性と関連している。産業的な経口、経皮、吸入ばく露による胎児性アルコール症候群の報告はない。また、動物実験でも妊娠ラットに経口投与した試験で奇形の発生がみられている。

特定標的臓器毒性(単回暴露)

- (1): ヒトの吸入ばく露により眼及び気道への刺激症状が報告されている(PATY(6th, 2012))。血中エタノール濃度の上昇に伴い、軽度の中毒(筋協調運動低下、気分、性格、行動の変化から中等度の中毒(視覚障害、感覚麻痺、反応時間遅延、言語障害)、さらに重度の中毒症状(嘔吐、嗜眠、低体温、低血糖、呼吸抑制など)を生じる。さらに、呼吸または循環不全により、あるいは咽頭反射が欠如した場合には胃内容物吸引の結果として死に至ると記述されている(PATY(6th, 2012))。ヒトに加えて実験動物でも中枢神経系の抑制症状がみられている(SIDS(2005))。

特定標的臓器毒性(反復暴露)

- (1): ヒトでのアルコールの長期大量摂取はほとんど全ての臓器に悪影響を及ぼすが、最も強い影響を与える標的臓器は肝臓であり、障害は脂肪変性に始まり、壊死と線維化の段階を経て肝硬変に進行する(DFGOT vol.12(1999))。また、アルコール乱用及び依存症患者の治療として、米国FDAは3種類の治療薬を承認しているとの記述がある(HSDB (Access on June 2013))。なお、動物実験では有害影響の発現はさほど顕著ではなく、ラットの90日間反復経口投与試験において、ガイダンス値範囲をかなり上回る高用量で肝臓への影響として脂肪変性が報告されている(SIDS(2005)、PATY(6th, 2012))。

誤えん有害性

: データなし

その他情報

: なし

12. 環境影響情報

混合物としてのデータはない。各成分の情報を記載する。

生態毒性

- (1): ・水生環境有害性(急性): 藻類(クロレラ) 96時間EC50 = 1000 mg/L(SIDS, 2005)、甲殻類(オオミジンコ) 48時間EC50 = 5463 mg/L(ECETOC TR 91 2003)、魚類(ニジマス) 96時間LC50 = 11200 ppm(SIDS, 2005)より、藻類、甲殻類及び魚類において100 mg/Lで急性毒性が報告されていない。
・水生環境有害性(慢性): 慢性毒性データを用いた場合、急速分解性があり(BODIによる分解度: 89%(既存点検, 1993))、甲殻類(ニセネコゼミジンコ属の一種) 10日間NOEC = 9.6 mg/L(SIDS, 2005)。難水溶性ではない(miscible, ICSC, 2000)

残留性/分解性 : データなし

生体蓄積性 : データなし

土壌中の移動性 : データなし

オゾン層への有害性 : データなし

13. 廃棄上の注意

製品、汚染容器及び包装の安全 : ・スクラバーを具備した燃焼炉で少量ずつ燃焼する。あるいは大量の水で、かつ環境上望ましい廃棄、又はリサイクルに関する情報 : ・スクラバーを具備した燃焼炉で少量ずつ燃焼する。あるいは大量の水で希釈して排水する。関連法規ならびに地方自治体の条例に従い廃棄する。
・空容器を廃棄する場合、内容物を完全に除去した後に処分する。関連法規ならびに地方自治体の条例に従い廃棄する。

14. 輸送上の注意

混合物としてのデータはない。各成分の情報を記載する。

国際規制

国連番号	(1): UN1170
品名	(1): エタノール又はその溶液
国連分類	(1): 3
容器等級	(1): II
国内規制がある場合の規制情報	(1): ・危険物船舶運送及び貯蔵規則 引火性液体類(危規則第3条危険物告示別表第1) ・航空法 引火性液体(施行規則第194条危険物告示別表第1)
注意事項	: 輸送前に容器の破損、漏れ等がないことを確認する。転倒、落下、破損がないように積み込み、荷ぐずれの防止を確実にを行う。直射日光を避ける。

15. 適用法令

該当法令の名称及びその法令に基づく規制に関する情報

毒物及び劇物取締法	: 非該当
労働安全衛生法	: ・危険物・引火性の物(施行令別表第1第4号)【4の3 エタノール】 ・名称等を通知すべき危険物及び有害物(法第57条の2、施行令第18条の2第1号、第2号・別表第9)【61 エタノール】 ・名称等を表示すべき危険物及び有害物(法第57条第1項、施行令第1条第1号、第2号・別表第9)【61 エタノール】
化学物質管理促進法(PRTR法)	: 非該当

その他の適用される法令の名称及びその法令に基づく規制に関する情報

消防法	: ・第4類引火性液体、アルコール類(法第2条第7項危険物別表第1・第4類)【3 アルコール類】: エタノール
-----	---------------------------------------------------------

16. その他の情報

特記事項なし

この SDS は基本的な取扱いについて記述したもので安全保証を意図して作られたものではありません。また、危険・有害性の評価は現時点で入手できる資料、情報、データ等で作成しておりますが、全ての資料を網羅したわけではございませんので取扱いには十分注意して下さい。